

大学生が就業体験

南三陸ホテル観洋 今年も広島からも受け入れ

首都圏などの大学生が夏休みを利用し、南三陸町志津川のホテル観洋でインターンシップ(就業体験)を行っている。今年初めて

広島も参加し、従業員から観光業のイロハや接客対応などにについて学んでいる。同ホテルでは東日本

大震災の現状を多くの学生に知ってもらおうとともに、南三陸町への移住者誘致などを目的にして、2012年8

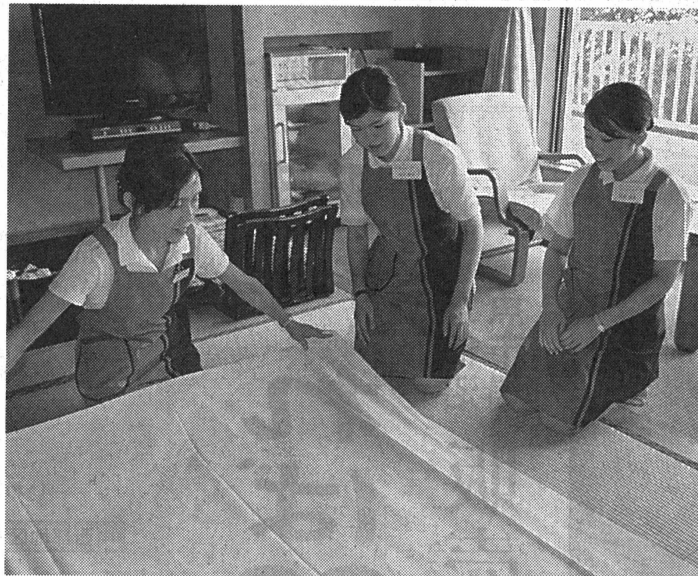
月から大学生のインターンシップの受け入れを始めた。毎年、東京の創価大や千葉の明海大などの学生が訪れており、今回は2校のほかにも広島私立安田女子大から初めてインターンに参加した。

田優香さん(20)、岡野希さん(20)の2人で、ともに現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科の3年生。2人とも観光業やホテル経営に関心があり、手を挙げた。

9月1日までの1カ月間、2人はホテルの一室に住み込み、従業員から利用客への接客や料理の配膳、客室の清掃や布団の準備など

の業務に当たる。布団の敷き方については「2人で息を合わせて優しく丁寧に」「しわを伸ばしてお客さまが気持ちよく眠られるように」などのアドバイスを受けながらこなしていた。

2人とも東北は初めて。「南三陸町は海や山の自然が豊かでとても良いところ。6年が過ぎてもまだ復興してい



布団の敷き方を教わる稲田さん(左)と岡野さん(右)

安田女子大の参加は、同大学の教授が昨年夏に被災地視察で南三陸町を訪れた時に、同ホテルでインターンを受け入れていることを知り、被災地で就労

2017年8月20日
三陸新報

ないことを学校に戻ったら伝えたい」と口をそろえる。

阿部憲子おかみは「2人ともまじめに取り組んでもらいありがたい。広島との縁ができたことは大変心強く、これからも交流を続けていき、一人でも南三陸に移住してもらえれば」と話している。